

中国における青果物直売所の展開と課題に関する研究

宋 曉凱・権慶梅

改革開放以降の中国では市場経済の導入・拡大を契機に、青果物流通システムが大きく変化してきた。特に、1985 年以降、流通制度の改革が一段と推進され、卸売市場が大都市及び青果物の主産地に開設されるようになり、卸売市場を経由する市場流通が青果物流通における主要な地位を占めるようになった。しかし、日本の農協のような農民の大規模な共同販売組織が基本的に存在しないため、青果物の集荷、消費地への輸送、消費地での販売という機能は、産地の集荷商、産地卸売市場、中継商または農民自身が行っており、流通経路が非常に多段階かつ複雑なものになっている。このような複雑な流通システム下で、青果物小売価格の高騰及び鮮度、安全性などの問題が目立っており、生産者と消費者との交流もほとんど行われていないため、卸売市場を通さない青果物流通が求められている。

中国では、生産者が消費者を直接に販売対象とする青果物直売所の取り組みは一般的ではないが、2010 年に入り、北京市、上海市、陝西省、河南省などで青果物直売所は相次いで開設されるようになった。直売所による青果物流通は、従来の卸売市場流通より流通段階が短縮され、鮮度の高い青果物を迅速に消費者に提供できるのみならず、価格の低下にもつながるため、新たな青果物流通形態としてその役割が期待されている。

本研究の具体的な検討課題は以下の通りである。まず、全国における青果物直売所の展開状況を把握することである。次に、青果物直売所の運営主体ごとに、鮮度と安全管理の実態、消費者の利用状況を分析する。最後に、青果物直売所の課題を明確にし、今後の発展を展望する。

本研究の主要な結論は下記のとおりである。青果物直売所は全国的に野菜価格が高騰しているなか、価格高騰対策の一つとして国務院に奨励され、各地で数多く設立された。現在、各地で展開されている青果物直売所の多くは規模が小さく商品種類も比較的少ないが、鮮度の高い青果物を低価格で販売しているため、地域の住民に多く利用されている。このことから、青果物直売所は青果物の流通において一定の役割を果たしていると言えよう。

一方で、青果物直売所は数多くの問題も抱えている。青果物直売所開設主体の一つである農民專業合作社の運営実態からわかるように、農家組合員は青果物直売所に野菜を供給しているが、野菜の直売による利益をあまり享受できていない。農民專業合作社は事実上、運営管理を行う理事、監事及び一部大規模農家のための組織である。農民專業合作社の組合員に対する技術指導体制、農薬残留の検査体制も確立されておらず、青果物直売所に出荷する青果物の安全性が確保されていない。もう一つの開設主体である龍頭企業は、青果物直売所商品の安全性を自社生産により確保することができたが、行政からの支援がなく人件費、運搬費などコストの問題に加えて、賃貸料の突然値上げ、交通管理部門による不当な罰金などもあり、一部店舗の経営が行き詰まっている。

卸売市場を経由しない青果物流通の一つである青果物直売所は、安全性や運営コストなど多数の問題を抱えているが、利用状況に関する調査結果からわかるように、社区居民の主な野菜の購買先となっているため、今後も大きく発展させていくべきであろう。そのために、商品数の増加、安全管理システムの構築はもちろん、行政からの強力な支援も求められる。